

何故？末期ガンは治らないのか？ ガン分子生物学から解くガン治療研究

～先端検査＋先進的治療で末期でも治るガン治療へ～

一般社団法人日本先進医療臨床研究会
不老長寿株式会社



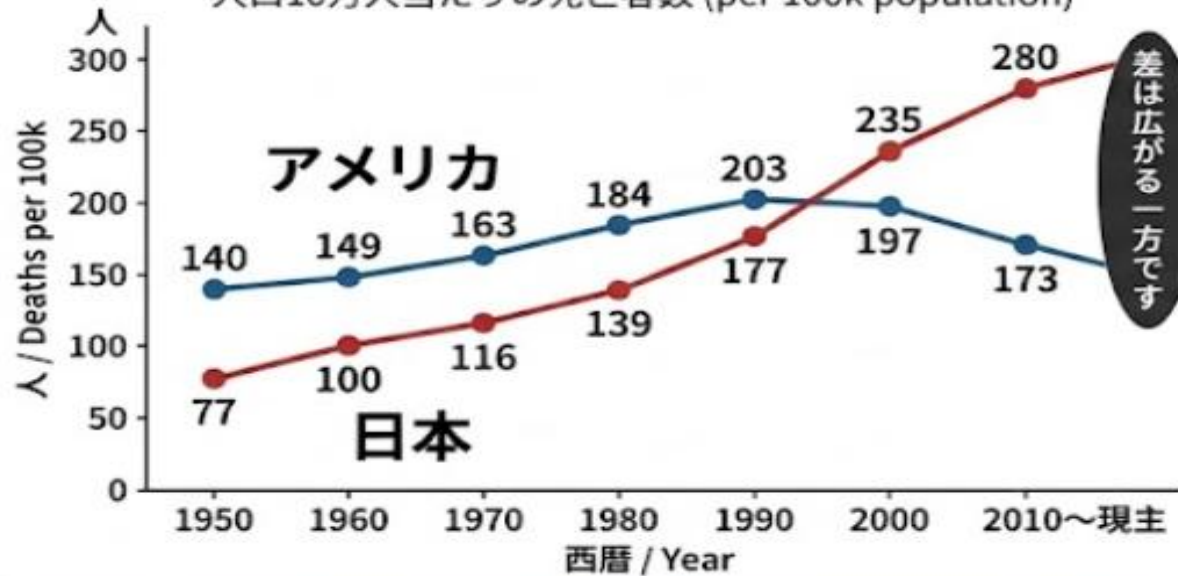
日本と欧米のガン治療比較

Page 2: 市場の課題と機会（社会的背景）

【ファクト】なぜ今、全く新しいアプローチが必要なのか？

【実証データ】日米の全がん死亡率推移 (1950-2010)

人口10万人当たりの死亡者数 (per 100k population)



 市場機会（オポチュニティ）

 命に直結する医療分野において『真に効果のある治療法』へのニーズは極めて高く、富裕層を中心とした巨大な自由診療市場が存在します。

 日本の現状
日本ではガン死亡率が
増加し続けています。

 格差の原因

日本

先端ガン検査・先進的治療システムの不足
システム不足が最大の要因

 世界の動向
一方、欧米では1990年以降、ガン死亡率は減少傾向にあります。

欧米

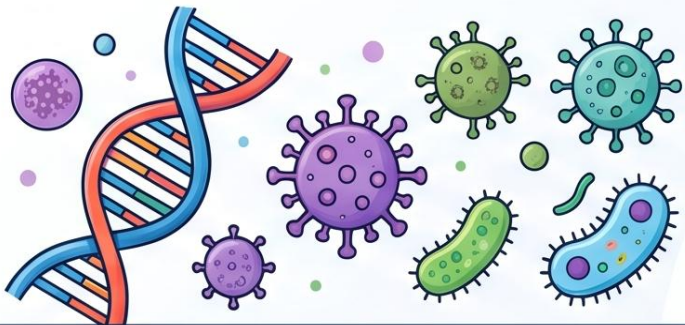
先端ガン検査・先進的治療システムの積極導入

 市場機会（オポチュニティ）
標準治療（切る・放射線・抗ガン剤）のみに依存したアプローチは限界を迎えています。



ガンの発生原因の割合

4. 約10%：その他



- 遺伝要因、ウイルス、カビ、菌、など

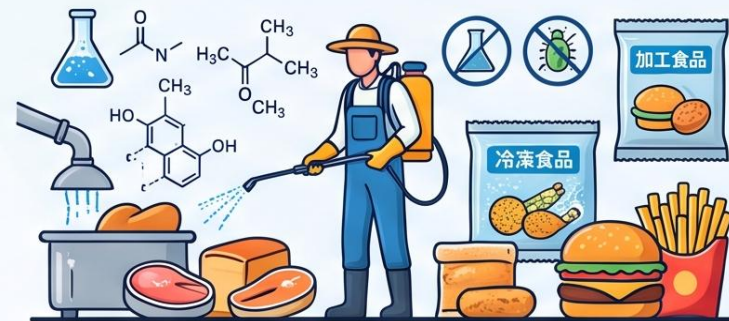
3. 約20%：環境要因



3. 約20%：環境要因

- 紫外線、環境ホルモン、歯磨き粉、ヘアケア、スキンケア、など

1. 約40%：食生活



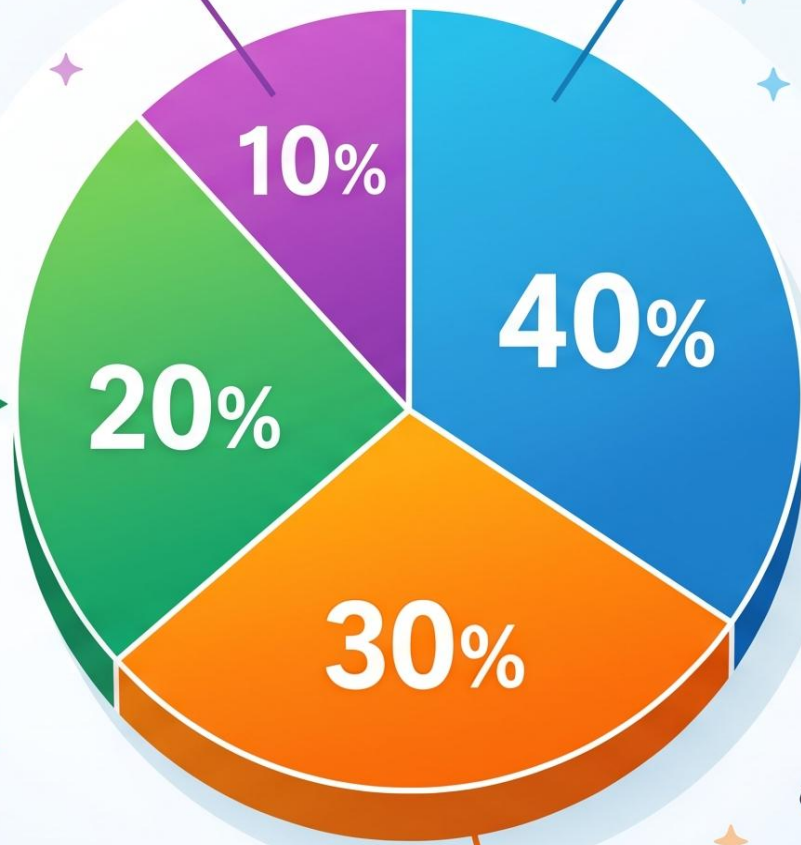
- 化学合成調味料（発色剤など）
- 化学合成食品添加物（保存料など）
- 農薬、加工食品、冷凍食品
- ファストフード、偏った食事、など

2. 約30%：ストレス



2. 約30%：ストレス

- 人間関係ストレス、過労ストレス、お金のストレス、など



4つのガン発生要因と免疫力のバランス

40歳前：高い免疫力ががん要因を抑制（健康）

1. 食生活

- 加工食品
- 添加物
- ファストフード

2. ストレス

- 対人ストレス
- 金銭ストレス

3. 環境要因

- 紫外線
- 環境ホルモン

4. その他

- 遺伝
- ウイルス
- カビ

擬人化された
NK細胞

リンパ球

NK細胞

M1マクロファージ

リンパ球

M1マクロファージ

20歳～

40歳

40歳過ぎ：低下する免疫力と巨大化するがん要因（病気リスク）

巨大化した
がん要因

巨大化し
がん要因

擬人化された
NK細胞

リンパ球

リンパ球

NK細胞

倒れそうな
イメージ

巨大化した要加
支えきれない
免疫力

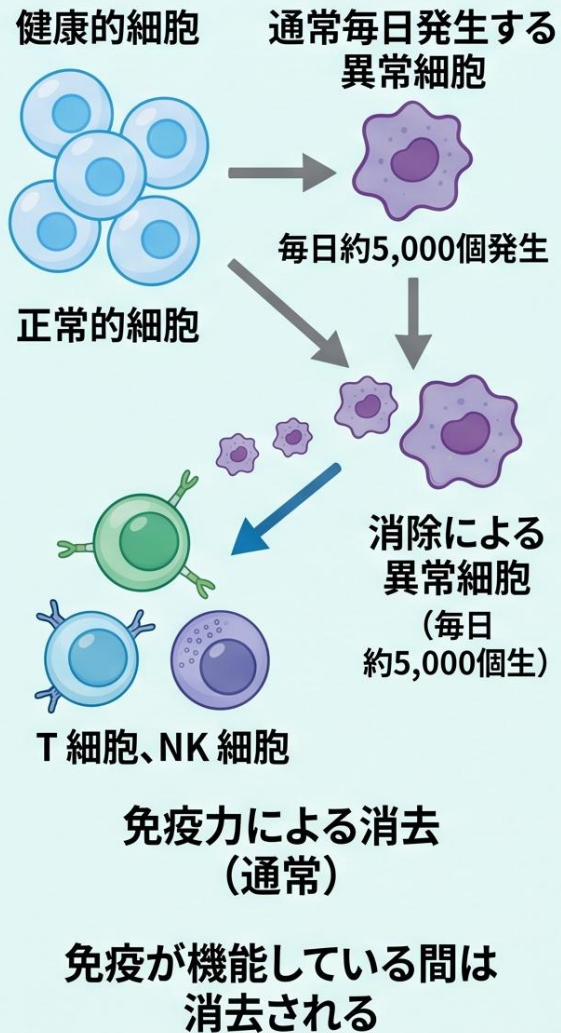
M1マクロファージ

40歳

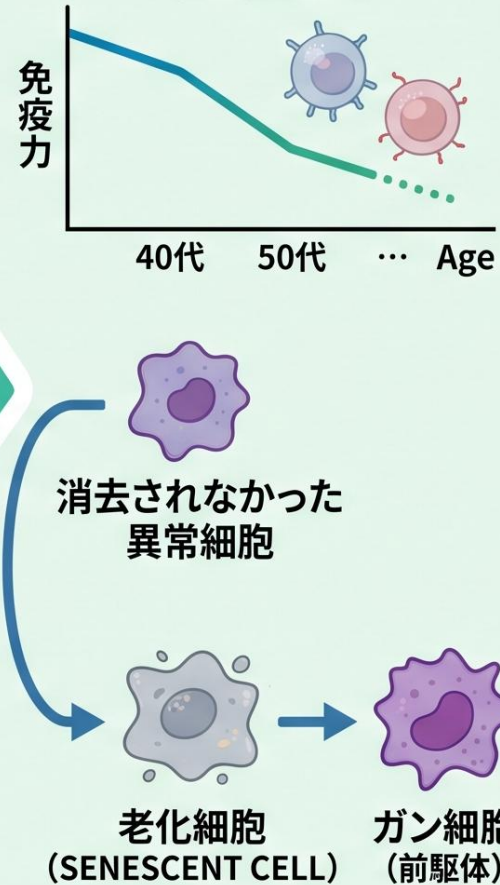
40歳～50歳～

ガン細胞から腫瘍への進化：発生から転移まで

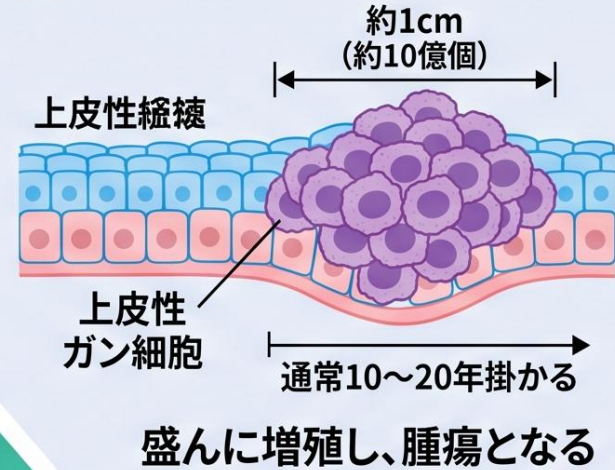
1 発生の仕組み



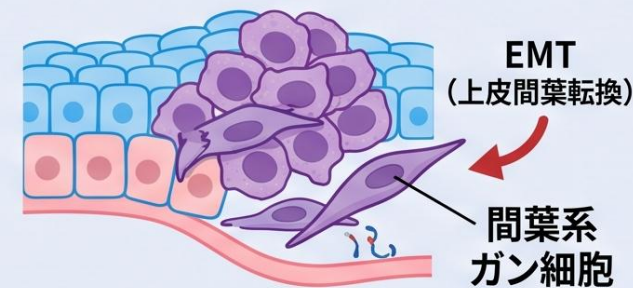
2 免疫力低下と老化細胞の経由 (40歳頃～)



3 腫瘍 (がん塊) の形成



4 浸潤・転移の能力獲得



盛んに増殖し、腫瘍となる

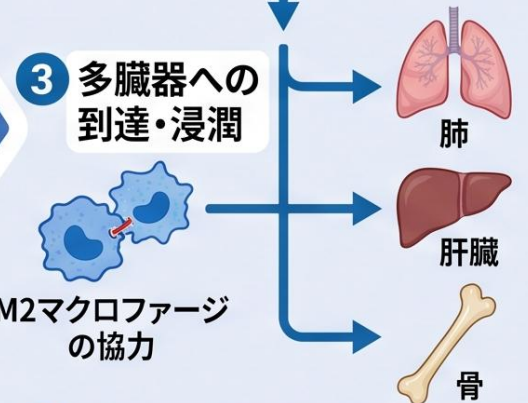
浸潤・転移の能力を持つガン細胞へ進化

5 転移のメカニズム (多臓器への広がり)

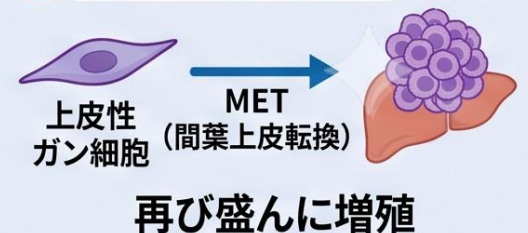
1 組織浸潤・血管侵入



3 多臓器への到達・浸潤



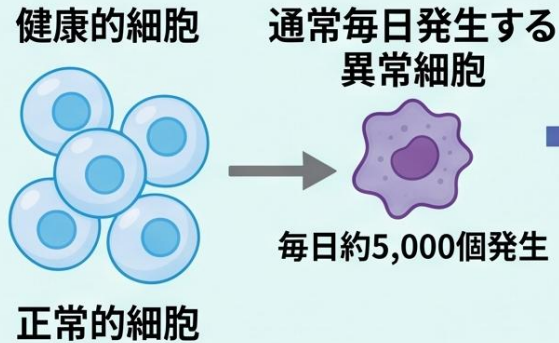
4 再増殖・転移巣形成



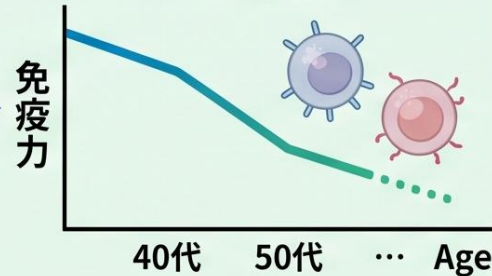
通常のガン進化とターボガンの爆発的経路の比較

【通常のガン進化（標準モデル）】

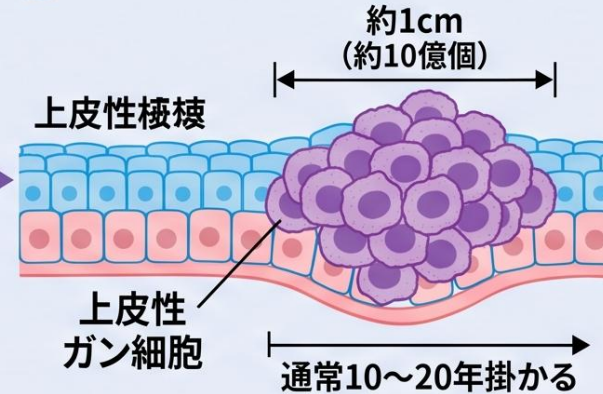
1 発生の仕組み



2 免疫力低下と老化細胞の経由 (40歳頃～)



3 腫瘍（がん塊）の形成



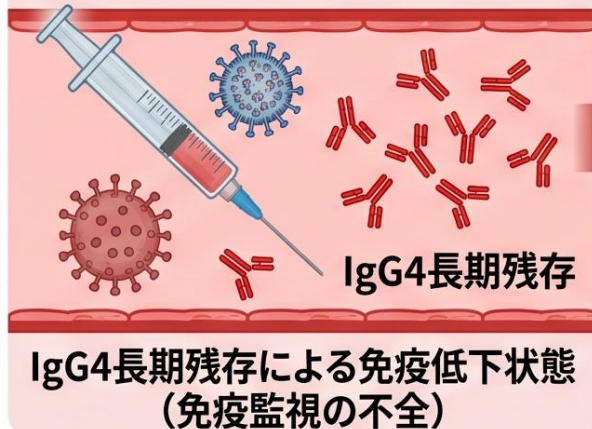
5 転移のメカニズム (多臓器への広がり)

1 組織浸潤・血管侵入

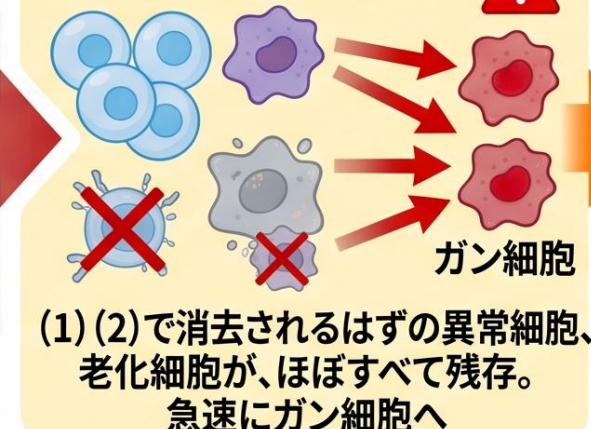


【ターボガン経路（新型コロナワクチン摂取による免疫低下が引き金）】

1T 免疫低下のトリガー：新型コロナワクチン摂取



2T 全異常細胞の生存と爆発的ガン化



3T 爆発的腫瘍形成と同時多発転移 (数か月)

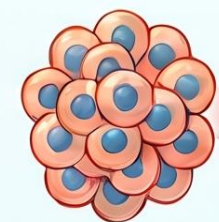
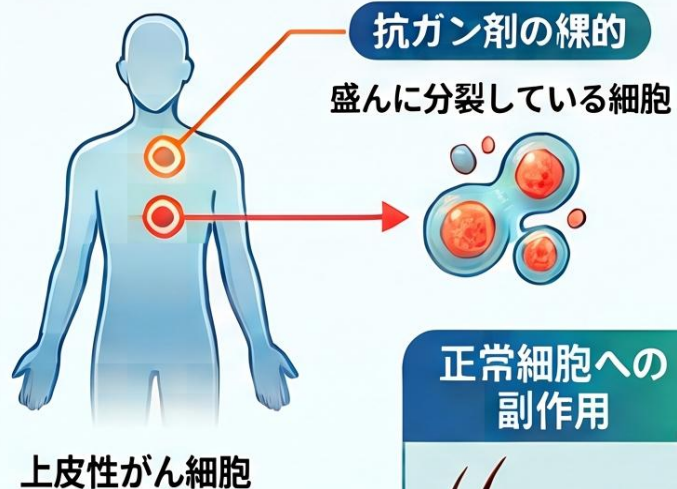


末期多臓器ガン

初期段階から末期の多臓器ガンへ爆発的に進行。数か月で全身に広がる

がん細胞の仕組みと抗ガン剤、そして新しいアプローチ

抗ガン剤の効果と副作用



効果あり



効果なし

間葉系がん細胞

正常細胞への副作用



毛母細胞
抜け毛



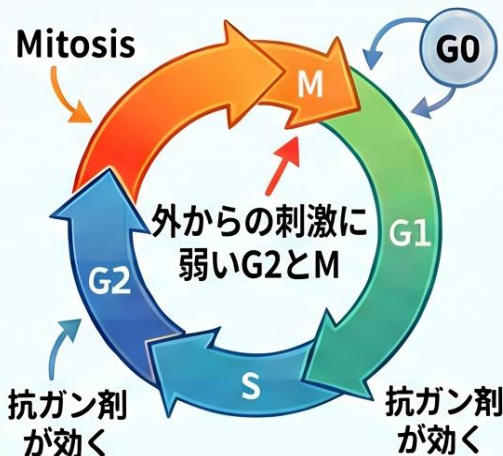
腫の縫毛細胞
食欲不振、
吐き気



速血球細胞
に骨髄に
免疫が下がる

これらも盛んに
分裂している

細胞分裂とアミノ酸制限



アミノ酸制限食の役割

細胞分裂の最終期に
アミノ酸が必要



アミノ酸
不足

G2期やM期
で強制停止

抗ガン剤の効果が
数十倍にアップ!



肉



魚



卵



牛乳

アミノ酸が多く含まれる

間葉系がん細胞への アプローチ：ミネラル

間葉系がん細胞に
抗ガン剤は効かないが、
あるミネラルによって殺せる



PPAR γ 遺伝子



がんから細胞



正常の細胞



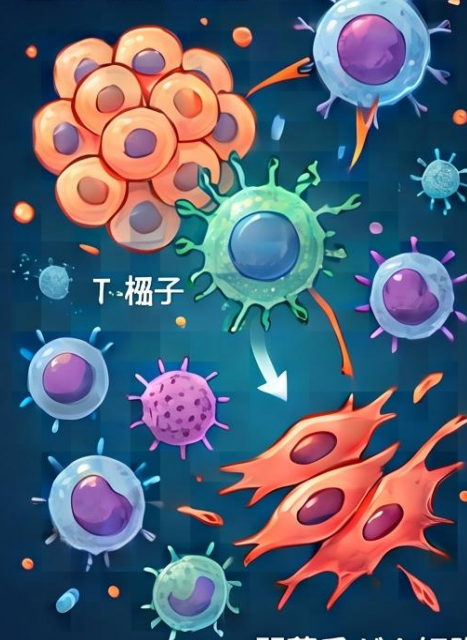
間葉系がん細胞
を正常化



上皮性がん細胞を、
間葉系がん細胞に
転換させない

最終解決策としての免疫

上皮性がん細胞



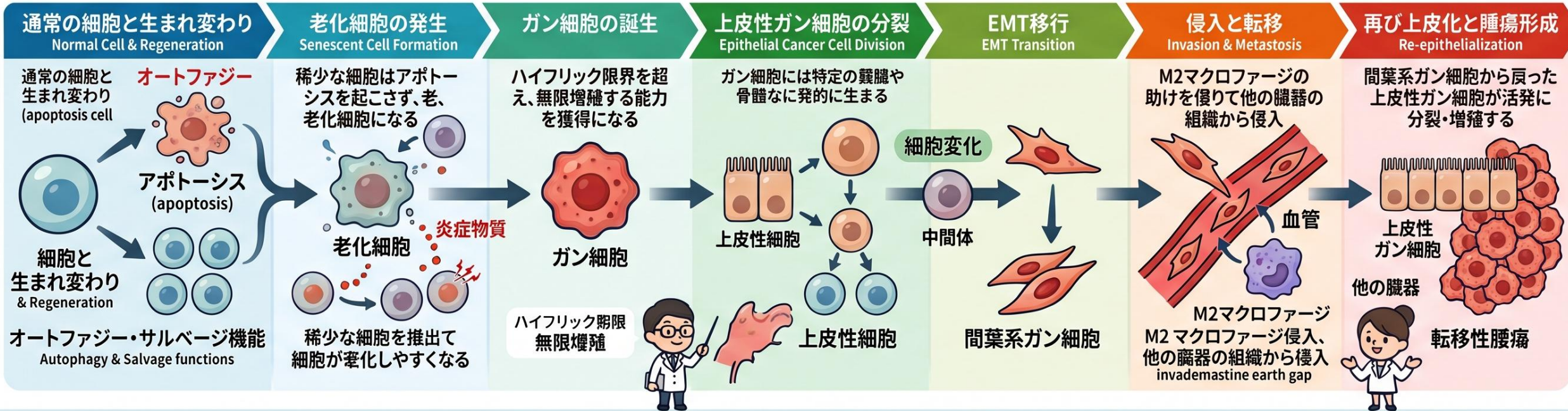
間葉系がん細胞

免疫はすべての
がん細胞を殺せる

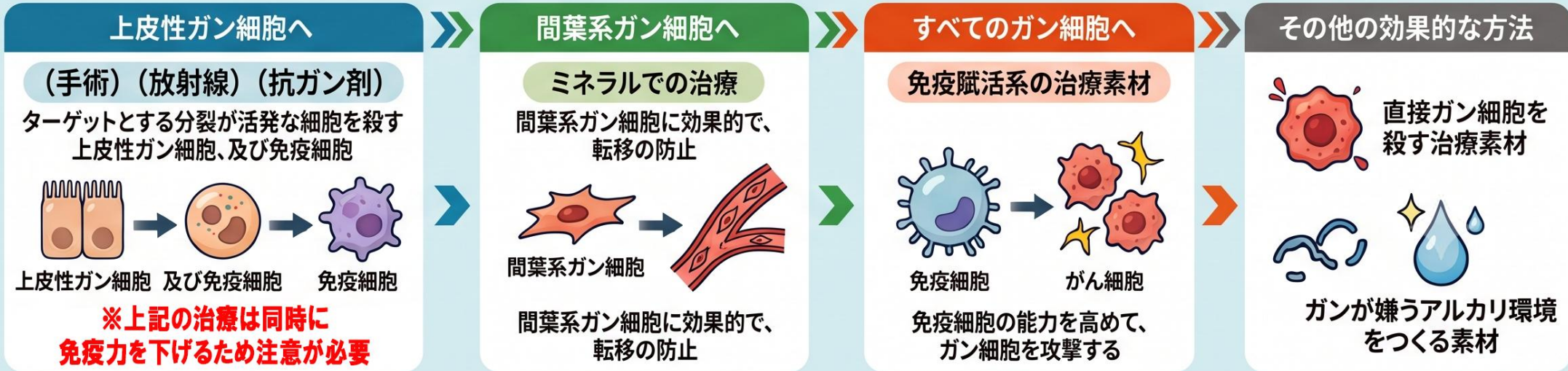
免疫力を下げないことが
非常に重要です

‘ガン細胞の進展と腫瘍形成、およびその阻止方法’

ガン細胞の発生と進展



ガン細胞の阻止方法



4期ガン 3年生存率83%

JSCSF【S式ガン治療】治療成績（生存率）報告、及び比較データ

2018年8月～2024年8月までの約6年間のデータ

当会（JSCSF）顧問S医師の【S式ガン治療】を受診したステージ4の患者数：310名

上記310名中、CTC検査を2回以上実施した追跡可能な患者数：102名

上記102名中、3年以上、生存中の患者数85名（生存率83.33%）でした。

ガン標準治療（手術、放射線、抗ガン剤、他） （ガンセンター等）ステージ4全ガン種平均	5年生存率	約10%
CTC検査＋標準治療（抗ガン剤、分子標的薬） （JSCSF/自費診療）ステージ4全ガン種平均	5年生存率	約35%
【S式ガン治療】（S式独自治療） （自費診療）ステージ4全ガン種平均	現時点で 3年以上生存中	約83%

ご清聴ありがとうございました。

ご清聴
ありがとうございました



早く行きたければ1人で行け
遠くまで行きたければ皆で行け
(アフリカの古い諺より)